

適正な温度管理でイネ苗立枯病を予防しよう!!

4月から5月の気温は平年並みの予報ですが、天気周期変動により極端な高温や低温になることも想定されます。苗が5℃以下の低温や30℃以上の高温に遭遇すると苗立枯病が発生しやすくなります。適正な温度管理と適切な薬剤散布により、健苗づくりに努めましょう。また、育苗箱は必ず洗浄、消毒したものを使いましょう。

1) 育苗温度

浸種期間・・・20℃を超えないようにする。

出芽期間・・・30℃を超えないようにする。

育苗期間・・・夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

○細菌性病害は気温が高いと発生しやすく、高温管理で爆発的に蔓延する。快晴時には早めにハウスの換気を行う。

○カビによる立枯病は夜間の温度が低いと発生しやすい。低温時には保温対策をする。

2) 水管理

○天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。

○ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

3) 床土

○病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。

4) 薬剤防除

※その他、くわしくは農作物病害虫防除指針をご覧ください

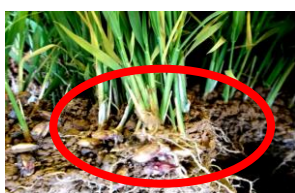
対象病害名	薬剤名	RAC	使用濃度	使用量※	使用時期	使用方法	使用回数
苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止	タチガレン液剤	32	500～1000倍	500mL	は種時又は発芽後	土壌菌注又は菌注	2回以内
	タチガレエースM液剤	32, 4				土壌菌注	1回
苗立枯病 (リゾプス菌)	ダコニール1000	M5	500～1000倍	500mL	は種時から緑化期 但し、は種4日後 まで	土壌菌注	2回以内
			1000～2000倍	1ℓ			
苗立枯病 (トリコデルマ菌) (フザリウム菌) (リゾプス菌)	ダコレート水和剤	M5, 1	400～600倍	0.5ℓ	は種時から緑化期 但し、は種4日後 まで	灌注	2回以内
			800～1200倍	1ℓ			
幼苗腐敗症 (もみ枯細菌病) 褐条病 苗立枯細菌病	カスミン粒剤	24	—	15～20g	覆土前	育苗箱には種した種粒の上から均一に散布する。	1回
				30g	は種前	育苗培土に均一に混和する。	

※育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当たり

○細菌性病害は、発生後の防除薬剤がないため予防対策をとる。特に5月中旬移植用の苗で、ハウス内の高温・多湿が予想されるので、必ず播種時に前もって薬剤防除する。



ピシウム菌による苗立枯病
(ムレ苗)



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

令和7年度農作物病害虫防除指針

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>

◇◇◇ 最新の農薬登録情報(<https://pesticide.maff.go.jp>)を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室

連絡先: 0776 (54) 9315

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>

二次元コードをスキャンしてください→



福井県病害虫防除室

